

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

9月号(NO36)通巻 186号

2021年9月10日(金)発行(毎月10日)

【農暦】歯痛を気にしながら草刈りだけはと！

○コロナと暑さ、それに歯痛の三重苦で家の中が多い生活になっている。ストレスの極みの感がある。昨日今日(3日)と20℃前後で10月の気温だという。急きよ長袖を着ている。温暖化は暑さ寒さが極端になり、日本の四季の春と秋が無くなるというが、日本の風情が無くなることを意味する。豪雨に、巨大化する台風もある。北海道が関東並みの暑さである。世界各地では激しい高温にさらされ山火事も起こっている。温暖化対策に猶予はないと肌身で感じる。

○東京の猛暑を避けるため、札幌開催(8月)になったオリンピックの競歩と、マラソンが行われた。暑さや湿度は、東京と変わらない。7日の女子マラソンは、参加88選手のうち15人が途中棄権し、8日の男子マラソンは、参加者106選手のうち30人が熱中症などの症状で途中棄権したという。

○表向きは、アストリーファーストなどと称しつつ、米テレビの都合で、真夏開催となっている。いまさら、指摘し

てもと思うが、10月10日の祝日(スポーツの日)は64年の東京オリンピックを記念してのものだった。コロナもあり、オリンピックは10月開催と思っていた。開催不安が6割の世論の中での強行である。なぜ?が残ってしまう。

○最初のコロナ陽性者が出て(昨年1月)から既に600日近くになる。この間「緊急事態」「蔓延防止」を繰り返し、自粛指示を繰り返している。日本の自粛はロックダウンより厳しいという話もある。コロナ感染急拡大で、先が見えないとあっては、比較的自由的な身であっても我慢も限りがある。心身のボデーブロウのダメージを感じる。

○暑さで抵抗力が落ちたのか歯痛で7月から悩まされている。3本目の奥歯の神経を3日に治療した。これで治癒すればと思っている。こんなことで笠間は不在がちになっている。歯を気にしながら草刈りと草取りだけとは頑張った。大根と白菜は諦めることにする。最近、同じ様なことを繰り返しているようで嫌だが、継続し頑張りたい、そして、秋の菜園を楽しみにしてる。(了)

【楽農】<畑>周りの草刈りと、黒豆、小豆、菊などの草取り。菊の支柱、茄子、ピーマン、トマトなど管理と収穫。

【楽市】イベントなど；詩吟例会、川柳の会は中止。緊急事態宣言が発令のため。



<百合>毎年咲く 28日撮影



<五本木公園>31日撮影

【つぶやき=Tweet】タリバンからすれば、米軍に洋上給油した日本は「参戦国」！

○カブールが陥落した。“満州や沖縄だってそうでした”（朝日川柳）をみて同じだなと思った。自衛隊の軍用機で退避出来たのは、日本人たった1人？とアフガニスタン人14人だった。日本の現地大使館員は17日にドバイへ既に避難していた。現地スタッフやその家族500人はそのままである。英国大使は部下の大使館員を出国させた後“通訳など英国に協力して来たアフガニスタン人らに出国ビザ発給し続け、自国軍と最後に帰国した”という。“自国軍が駐留している国との比較は慎重でなければならない”（天声人語）というが、タリバンからすれば、日本はアメリカ軍に洋上給油した「参戦国」に見える。「命のビザ」の杉原千畝外交官のことが、政府援助ゼロで頑張られた中村哲さんことも思い出されてしまう。“自助”の菅政権の姿に情けないだけでは済まないものを感じる。

○マスコミが政権批判に慎重になっているようで、政権に不利なニュースを自制しているのか、海外メディア経由で知ることが多い。川柳や天声人語から明快なニュースを得ることも増えた。「偏向報道」という縛りで政権批判は許さない。報道の自由の規制も、同調圧力の社会も怖い。忖度もだが息苦しい社会はご免である。



＜五本木公園＞31日撮影

○自粛の繰り返いで、エッセンシャルワーカー、飲食業者などの心労は想像を超える。違反には罰でなく、支援と感謝だと思う。コロナ対策が一番と言いながら、医療、検査体制の整備の政策も進捗も不明瞭で、指示だけが目立つ。一方で、総理続投のための政治シナリオを優先し、政権支持率低下で、菅おろしの党内抗争に、感染拡大している今、総裁を降板をする。政策でなく権力争いで、同罪の現閣僚の顔もある。政治不信は募る。

○“後世から「コロナ・パンデミックに際し国民にマスク2枚と10万円を配った、愚かな時代」と、嘲笑されるであろう “と寺島実郎氏は云う。その通りだと思う。喫緊の課題は多い。コロナ対策から貧困、格差是正、温暖化対策・SGDS、覇権主義台頭など大袈裟でなく人類の危機が始まっている。衆院選では、信ある政治に大きく変えねばならない。

○“地球の歴史は46億年、微生物は30億年、それに対し、ホモサピエンスは、20万年であり、人類は、地球の新参者にすぎない。「人類は、ウイルスとの、共生で生きてきた、という自覚が必要」という。ヒトの体内には、細胞数の10倍となる、380兆個ものウイルスが存在し、大半は無害であるが、病原体ウイルスも、32万種も存在するという。こうした視界は、生命体としての人間を相対化するのである”。コロナとは敵対的でない考えが必要だという。今の生物学の知見である。（了）

○断捨離考：段ボール1箱分本を業者に。気力が上がりず停滞は継続。場所を決め進めたい。

【後記】自粛は重い。体力と気力、それにボケ防止もかなと。【HP ; kogure農場に転載】

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com